

環境問題を地域と共に

◆ODAの木協会の歩み

地方でのグローバル化を視野に平成五年旧小田町のローマ字表記のままODAの木協会は発足しました。現在の内子町小田深山を拠点に活動しています。

発足当初から、国際化事業部・環境教育事業部・ブランド事業部の3部門で構成され、過去十回、中学生の海外派遣事業として東南アジアでの植林体験やホームステイ、また、海外青年招聘事業の受け入れや聴講生として五年間一般のご家庭で受け入れて戴きました。

次に、環境教育事業部は当初よりODAの木自然学校を開校し、廃校跡を借り上げて環境教育や自然体験学習など、通年受け入れています。又、合併から十年になるうとしていますが、行政の支援もあり、奥山の森林適正整備に環境保全の面から取り組んでいます。特に森林の環境保全については、後でもう少し詳しく記したいと思います。

次に、ブランド事業部は、当初から、地元ならではの特産品や土産物の開拓に力を入れ、松山市内での物産展を十年に渡り開催しました。先進地での学びも視

野に入れながら、他の部門のコーディネーター役として活動しています。以上、部門別でのそれぞれの活動は、



手つかずの自然が残る小田深山

年間を通して数多くあり、地元の有志や各種団体の協力が無ければ現在はないと思います。

◆「環境教育」を掘り下げる

自然教育と環境教育は本来違う概念ではありますが、これらはその活動の展開にあたって整合する部分が多くあります。自然保護を目指すその課程で環境を捉えようとする場合の環境教育は、ほとんど自然（保護）教育と同等と言っても過言ではありませんが、環境教育の捉え方には、例えば、自然から疎外された都市部の問題や、公害・大量消費・リサイ



NPO法人
ODAの木協会 理事長
高本 師津雄（内子町）

クルなどに関係した問題もあります。さらには南北問題にかかわる「開発教育」ともなれば、これはもう自然だけの世界から大きく逸脱するのは当然です。「国際理解」・「宗教」など、ひいてはグローバル的世界経済社会の歪みまでも視野に入れた環境教育が必要になってきます。



森林環境教育トレッキング

◆今やらないで何時できる

「生命の水を育む森林づくり」と、かねてより気になっていた素晴らしい景観を有する小田深山溪谷を次世代にまで受け継ぐ為に、環境から林業を見直し、森のはたらき・保水のしくみ・なぜ日本中の森が荒れたのか・密植短伐期林業と拡大造林・林業の収益性・森林の保続とは、等々、学べば学ぶほど、不可解な問題が見えてきます。

以前の兼業農家が土木作業に移ったように、現在環境林業型の兼業林家が求められ、広い意味での森林資源管理が必要になって来ました。これらの管理や利用を、住民参加型や直接費用弁済で日当払い、さらには技術習得後独立を促すスキルアップの実施、これらを含めた農林漁業の新天地再復活(専業・兼業・副業)、さらには、幸せ家族の生活環境(田舎ぐらし・移住者促進)、3世代同居のすすめ(福祉・少子高齢・大黒柱の構築・コミュニティ)、そしてツーリズム改革(滞在・体験型民泊手法)、小部落ステイ等々について、地域住民・有志の方たちとの懇話会を重ねています。

◆出来るコト探し

人にはそれぞれ様々な事情があり、「出来るコト」もそれぞれ違います。だから、それぞれが自分の状況に応じた「出来るコト」を見つけ日頃の行動に結びつけて行くこそが大きな一歩であります。

たとえ小さな事柄でも改善に向けた行動のほうが、はるかに大切です。だから「これをやればいい」なんてマニュアルは生まれません。それぞれの事情を考慮しない目標は長続きしないばかりか、マイナス面をかきたてて、いたずらに暗い気持ちをおおるだけです。大切なことは、一人ひとりが元気になる「出来るコト探し」であり、誰かが作った正解に自分を当てはめて、窮屈な思いをするのではなく、あなたの関心と状況に合わせてオリジナルの「出来るコトリスト」をつくり、実行することが大切な一歩だと思います。

そして、内子町には、実際にライフスタイルの変化を求めて数十名移住されています。他にも、松山から毎日通って森林に従事されている方など、「出来るコト」の一つとして実践されている方たちには頭が下がるおもいです。



小規模分散型林業の取り組み



ニュースに出ない森林災害多発

◆林業の難しさ

木材生産は、機械と人件費がその経費の大部分を占めることからしても、日本特有の急峻な地形においては、生産性・採算性において非常にロスが多いことが解って来ました。現状では、固定費をカバー出来ない日本の林業機械に原因があると云っても過言ではありません。半額補助の機械で人件費・輸送費・市場経費などを除けば、所有者に還元することは困難な状況もあります。日本の林業機械メーカーのほとんどは建機メーカー由来であること、そして何より怖いのは路網のずさんな後始末にあります。

先進国では唯一の森林大国で、国土面積の六十七%を占めていることや、木材の自給率は二十%を下回り日本は世界最大の木材輸入国であることなど…。

難しい事を沢山申しましたが、今後は、小規模分散型の森林経営システムを構築し、奥山七合目以上は自然林復元のため、「伐って使って植えて育てる」四つのサイクルを確立し、実現するために、参加者が増えてきた今日、地域の良き理解者と共に方向性を見いだし、次世代に恥じない森づくりを推進して行きたいと思っています。